

## 1. 調査の概要

### ■ 調査対象

2017 年度に入学した全ての学生

### ■ 調査期間と方法

1 年次生の必修科目である「基礎ゼミナール」の授業中に回答してもらった。アンケートは学内に構築したアンケート用サーバを用い、コンピュータを用いて Web から回答してもらった。調査は記名式で実施した。個人を特定するユニークなトークンを含む回答用ページの URL をあらかじめ各個人の E-mail アドレス宛に送付し、授業中に教員の指示によって各学生のメールに記載された URL から回答してもらった。

### ■ 主な調査項目

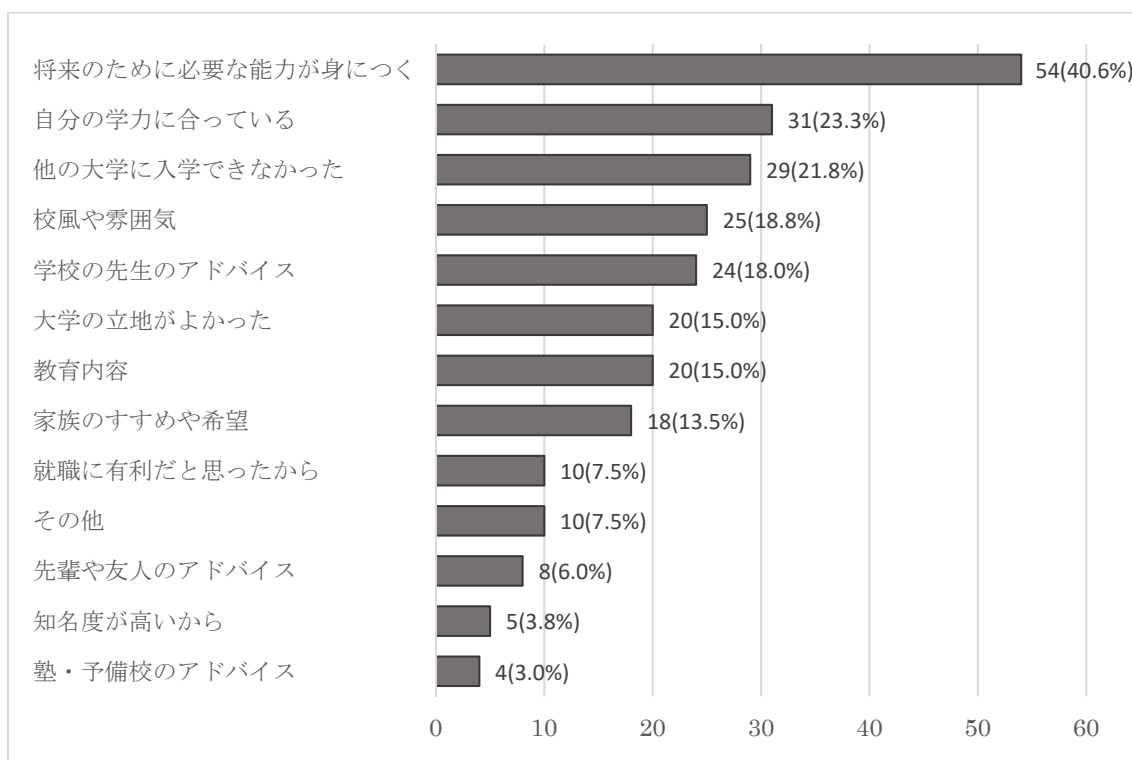
- 入学決定理由と決定に役立った情報源
- 大学の魅力やイメージ
- 大学生活について
- 身につけたい力や学びたいこと
- 入学前の学習状況
- 大学進学理由

### ■ 回収状況

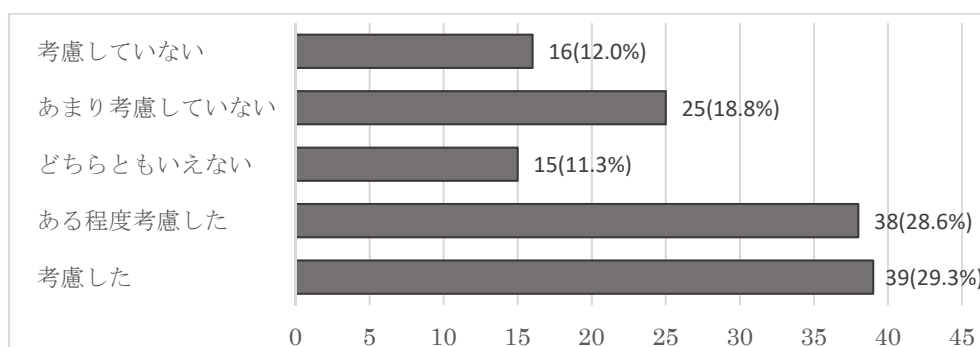
2017 年度の新入生 152 名のうち、87.5%にあたる 133 名から回答を得た。回答者のうち、49 名 (36.8%) が男性、84 名 (63.2%) が女性であった。

## 2. 入学の理由など

入学を決めた理由を複数回答形式でたずねると、「将来のために必要な能力が身につく」への言及が最も多い。外国語を柱とした本学で身につく能力を踏まえて入学を決めたことがわかる。これに次いで「自分の学力に合っている」や「他の大学に入学できなかった」といった理由が比較的多く言及される。これらは入学の難易度に関するものであることから、学べる内容とともに自分の学力を勘案して入学していることがうかがえる（図1）。また、本学の大きな特徴である「京都」という立地については、比較的考慮されていることがわかる（図2）。



【図1】 本学に入学を決めた理由（複数回答）

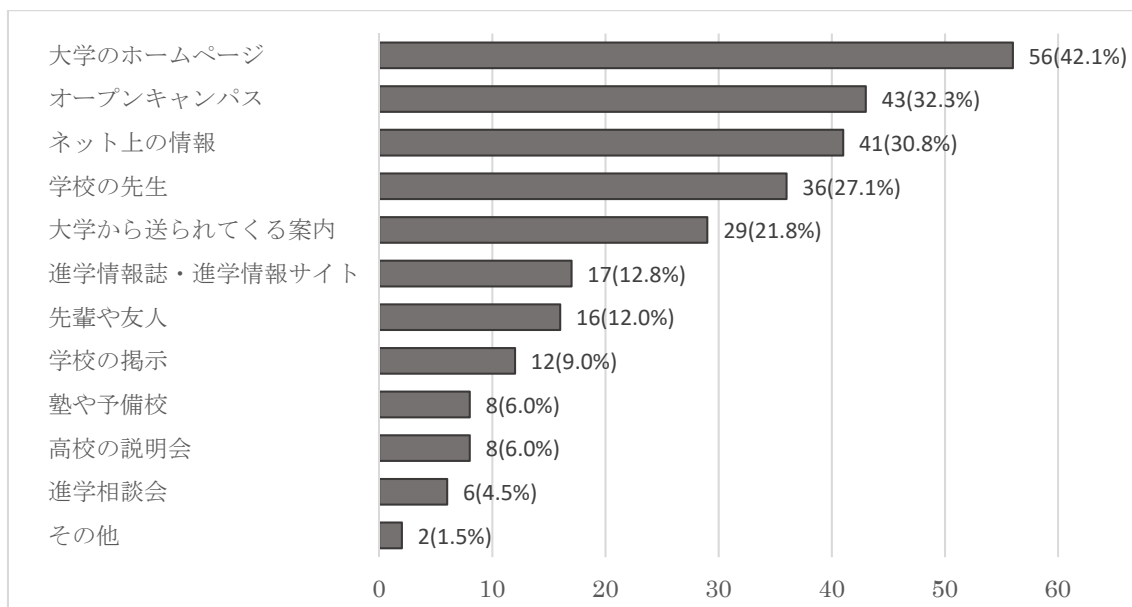


【図2】 入学にあたって京都にあることを考慮したか

## 3. 本学の魅力・情報源

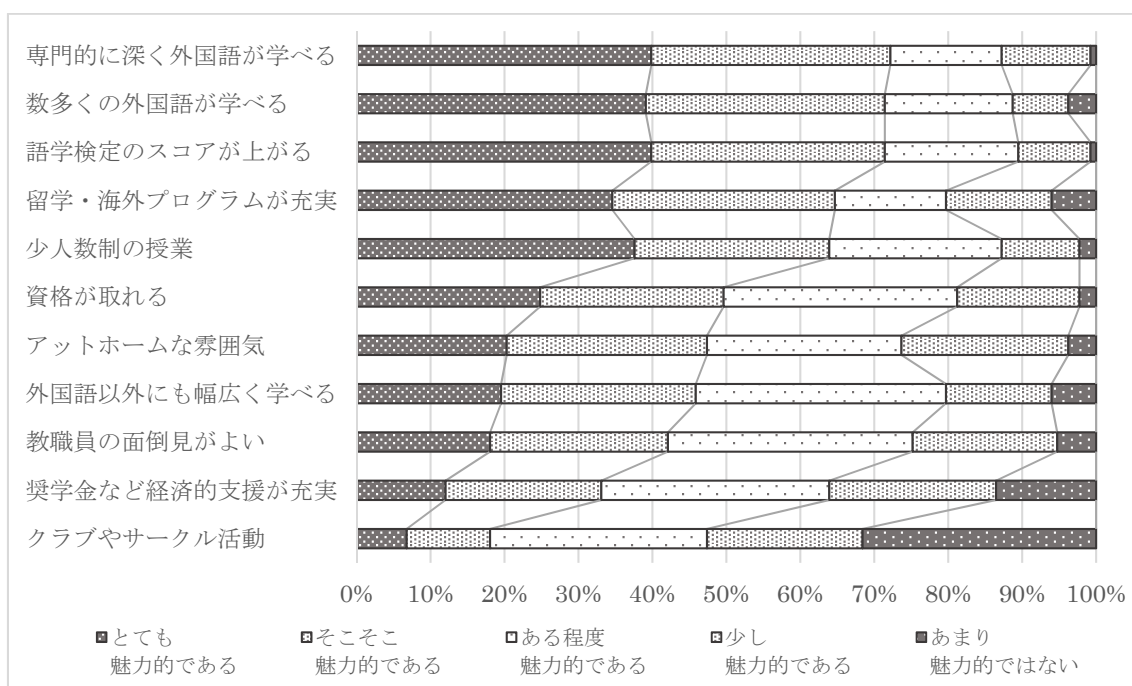
入学前に本学のことを知るのに役立つ情報源についてたずねると、「大学のホームページ」への言及が最も多く、続いて「オープンキャンパス」「ネット上の情報」となる。志願者に対する広報や情報伝達において、インターネットは欠かせない存在になっていることが改めてわか

る。それと同時に、実際にキャンパスに足を運んで在学生や教職員と直接接触するオープンキャンパスも言及が多く、オープンキャンパスの重要性がうかがえる（図3）。



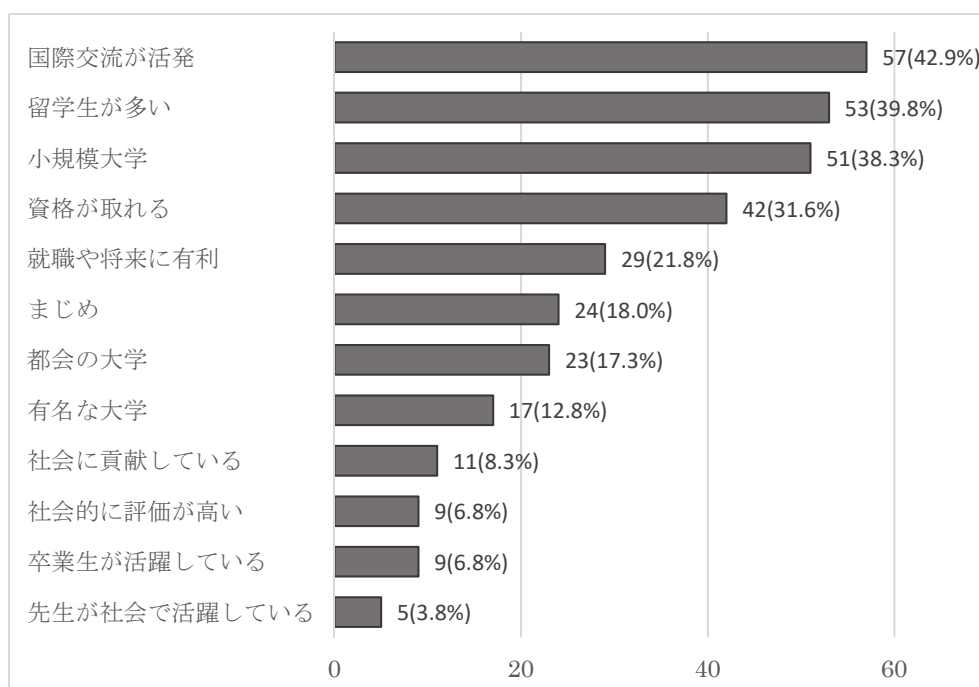
【図3】 本学のことを知るのに役立つ情報源（複数回答）

本学の魅力について11の項目を挙げ、それぞれ5段階で評定してもらったところ、「とても魅力的」「そこそこ魅力的」を合わせた割合が多いのは、「専門的に深く外国語が学べる」「数多くの外国語が学べる」「語学検定のスコアが上がる」で、約7割の学生が魅力に感じている。外国語教育の専門性や多様性と、それを裏付ける検定試験のスコア向上が目指せることが、本学の大きな魅力となっているようである（図4）。これらの他にも、本学の教育の特色である少人数制の授業や、留学・海外プログラムなども魅力となっている。



【図4】 本学の魅力

本学に対して持っているイメージについて、選択肢からあてはまるものをいくつでも選んでもらう形で回答してもらったところ、言及数の上位に来るのが「国際交流が活発」「留学生が多い」「小規模大学」などである。他方で、言及が少ない項目には「卒業生が活躍」「先生が社会で活躍」「社会的評価が高い」といったイメージは、あまり持たれていないようである。大学の「ブランド力」といった点では、高校生にはあまり浸透していないようである（図5）。本学が選ばれるのは、こうした「ブランド」のような価値ではなく、先に見たように実質的な教育の内容などの観点だとみることができるかもしれない。



【図5】本学のイメージ

#### 4. 大学生活や学習について

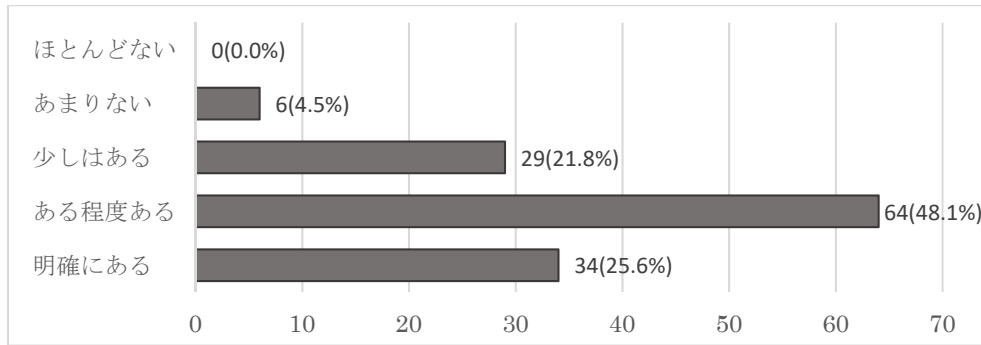
大学に入学するにあたって、大学で勉強したいことや取り組みたいことがあるかをたずねたところ、約半数の学生は「ある程度ある」と回答している（図6）。また、「明確にある」と回答する学生も25%程度おり、全体として大学に入学した目的ははっきりしているようである。また、卒業後の見通しや進路についてたずねると、「ある程度ある」との回答が多く、「明確にある」という回答もそれなりにある（図7）。他方で、「ほとんどない」「あまりない」と回答する学生も一定数いる。こうした学生には、2年間という短い在学期間の中でしっかりとした卒業後の進路の支援が必要だといえるだろう。

大学生活に対する不安について、6つの項目に対してそれぞれ5段階で不安を感じる度合いを評定してもらった（図8）。この中で、最も不安が大きいのは「卒業後の進路や就職」である。短期大学は在学期間が短いため、入学直後であっても卒業後の進路に不安を感じやすいのかもしれない。卒業後のこと以外で不安が大きいのは、「大学での勉強」についてである。これらの不安を緩和するために、学習に対する支援や卒業後の進路に対する支援のあり方を検討する必要があるだろう。他方で、人間関係や生活面での不安は、相対的に少ないようである。

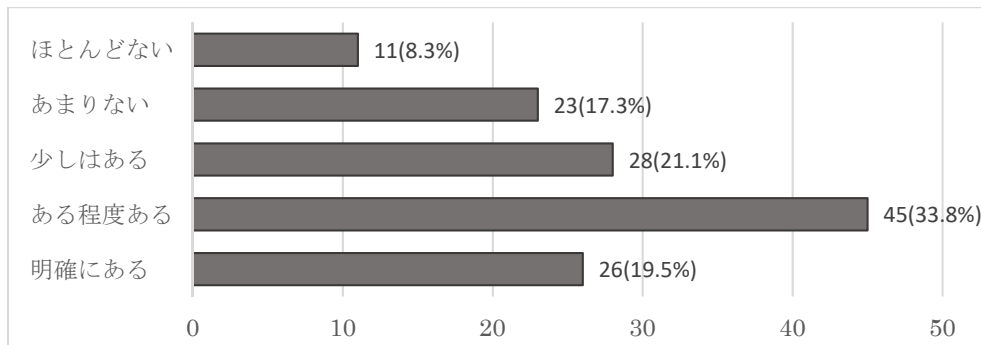
大学で身につけたい知識やスキルについてたずねると、外国語大学らしく「外国語の運用能力」や「コミュニケーション能力」への言及が多い。その一方で、課題の発見や解決、議論する能力、情報収集や分析など、いわば「論理的」な能力を身につけることには、あまり関心がない

ようである。大学で身につけるべき能力や社会で必要とされる能力のあり方には様々な捉え方があるが、本学に入学してくる学生の特徴を踏まえた教育やキャリア支援が必要だろう。

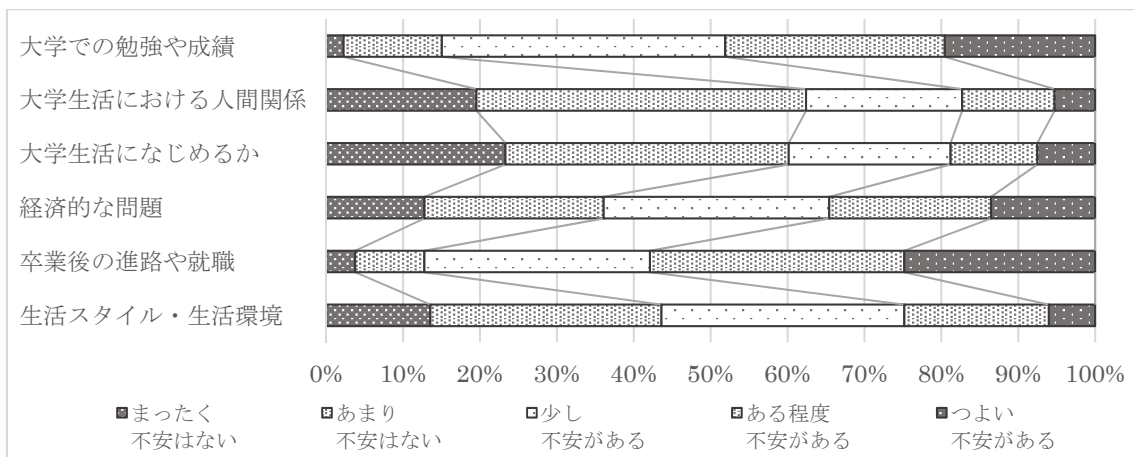
大学で勉強してみたい分野についてたずねると、英語を主に学ぶ大学であるためやはり「英語」への関心が最も高く、続いて「その他の外国語」や「コミュニケーション」などへの言及が多い。それ以外では、旅行や観光、エアラインなどへの関心が高いようである。



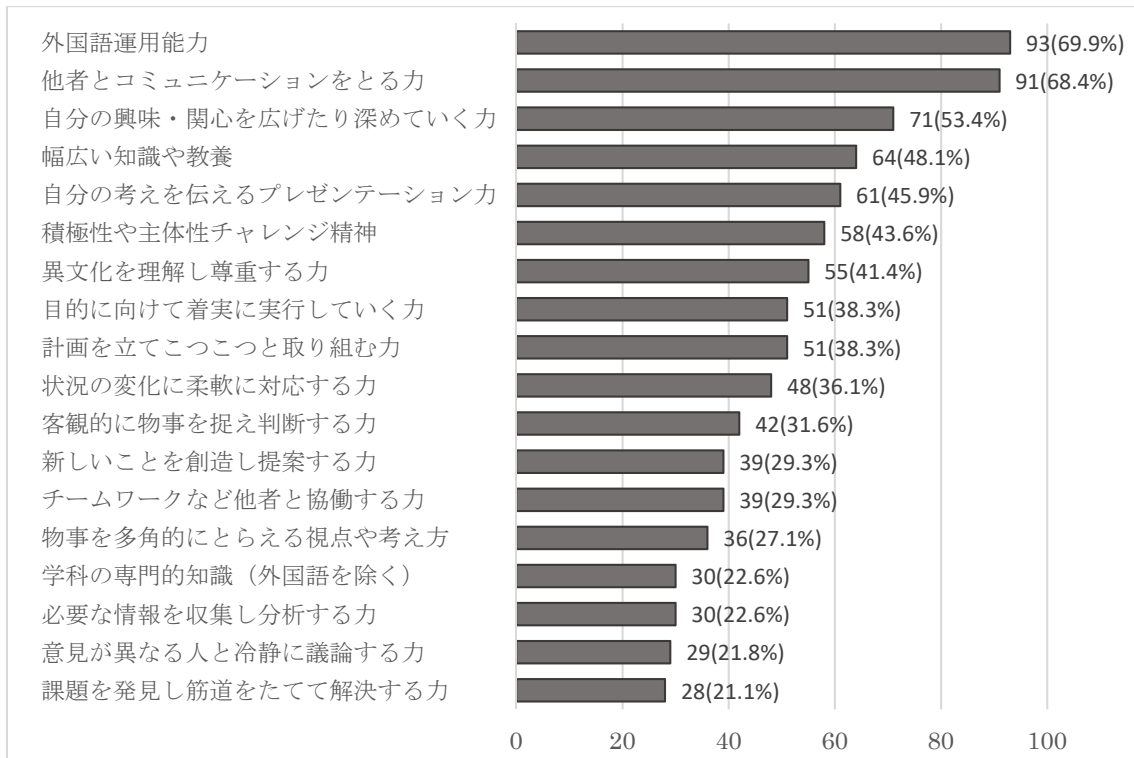
【図6】大学で勉強したいことや取り組みたことがあるか



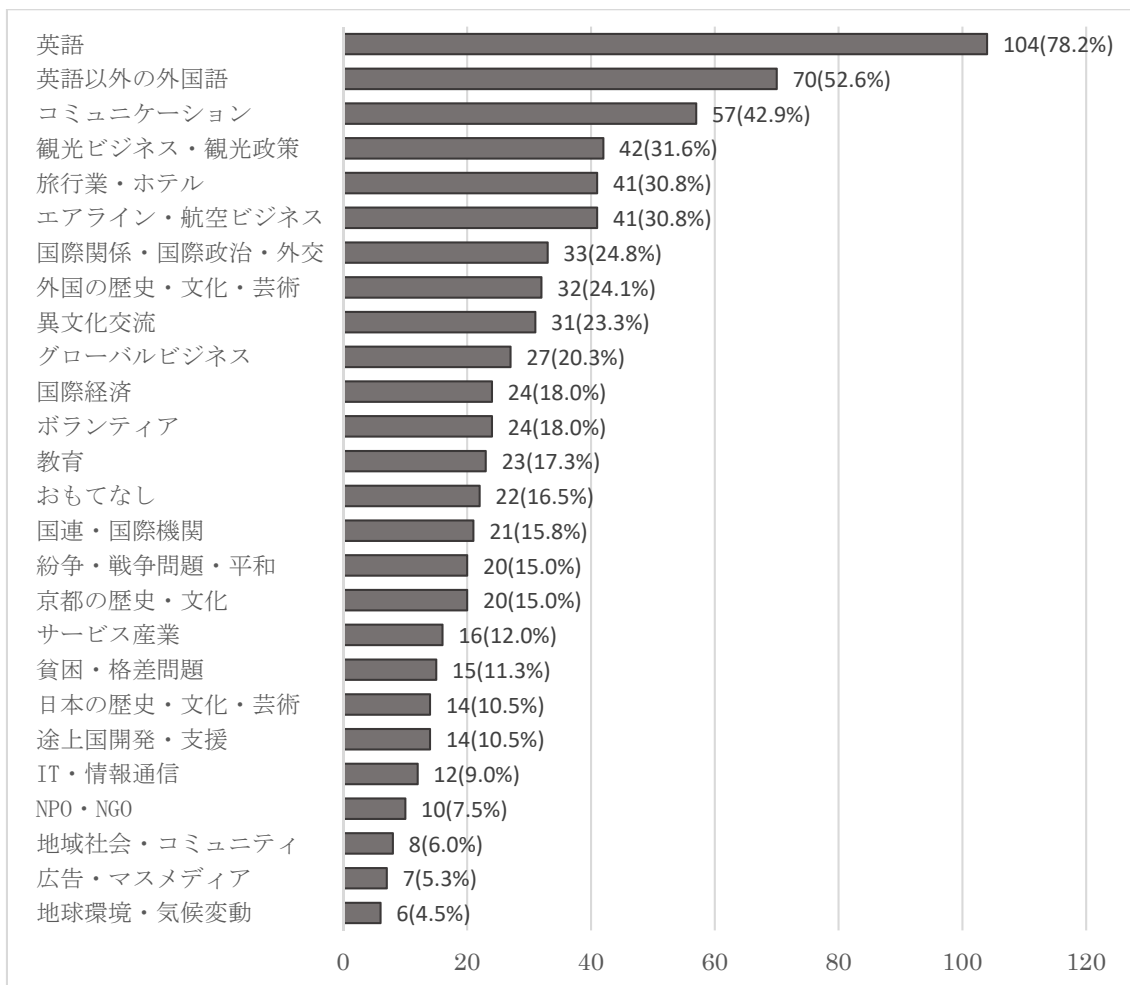
【図7】卒業後の進路や将来のイメージはあるか



【図8】大学生活に対する不安

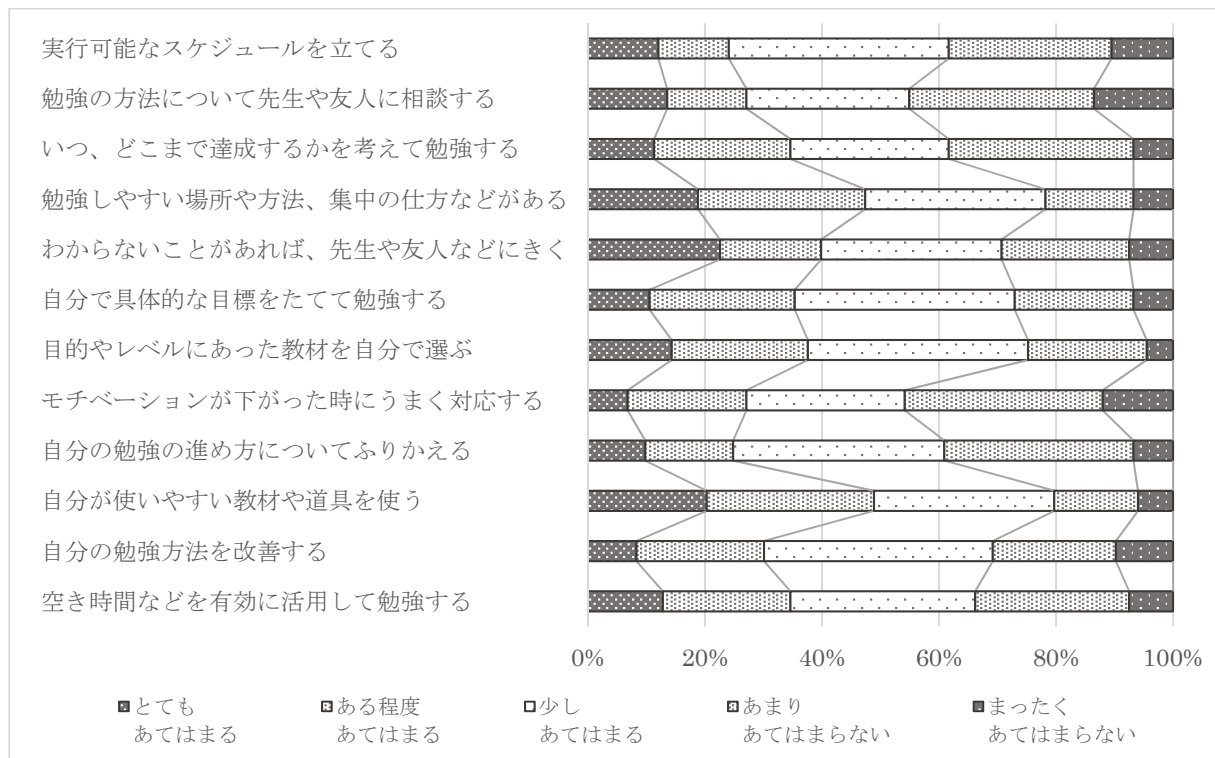


【図 9】 大学で身につけたい知識やスキル



【図 10】 関心がある分野

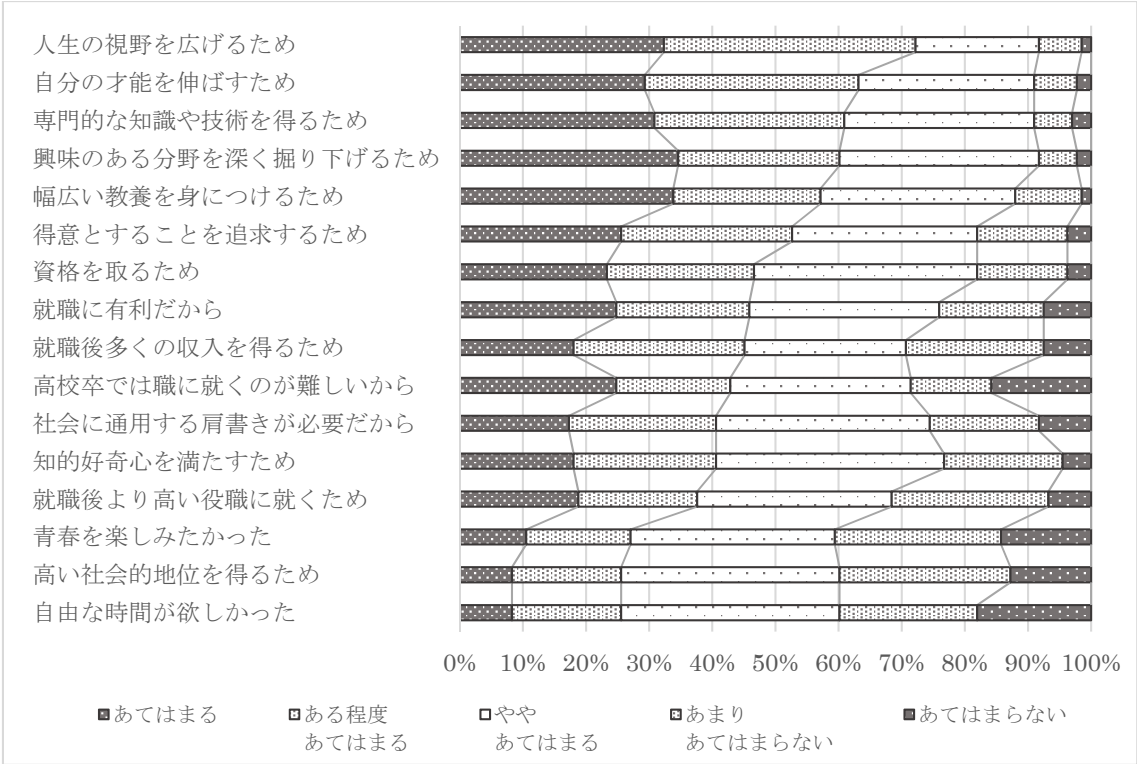
大学に入学する前の学習行動についてもたずねた（図 11）。比較的多くの学生にあてはまるのは、自分なりの勉強をする場所や方法を持っていることや、自分の使いやすい教材や道具を使うことなどである。他方で、モチベーションの低下にうまく対応できていないかったり、勉強方法をふりかえること、計画的に勉強することなどは、あまりうまくできていないようである。本学では、自分自身で主体的に学習をすすめることができる「自律的学習者」の育成を目指しているが、新入生のこうした現状を踏まえて、適切な学習方法の指導を行っていくことが必要だろう。



【図 11】入学前の学習行動

## 5. 大学進学動機

大学に進学した動機や目的について 16 の項目を挙げ、それぞれ自分にあてはまるかどうかを 5 段階で評定してもらった。進学動機としてあてはまるという回答が相対的に多いのは、「人生の視野を広げる」「自分の才能を伸ばす」「専門知識や技術を得る」などである。資格取得や就職に有利であるなど、具体的な目的ではないものの、積極的な動機で大学進学を選択しているようである。他方で、「自由な時間が欲しい」「青春を楽しみたい」など、消極的な理由に言及する学生はあまりいない。大学進学動機の構造を探るためにはもう少し踏み込んだ分析を要するが、本学の新入生の進学動機の特徴の一端が見える。



【図 12】 大学への進学理由